

平成31年度工事等事故防止重点対策項目を策定！

①地下埋設管及び敷設ケーブルに対する事故

②架空線に対する事故

③高所作業箇所からの墜落事故

※高所作業箇所とは法面・足場等安衛法に規定する高さ2m以上の作業箇所

④資材・仮設材及び工具の飛来落下による事故

※壁等の倒壊による上方からの落下事故含む

※強風による資材等の飛散事故含む

※UAVの落下事故含む

⑤重機による施設及び作業員等との接触事故

※施設とは公共施設及び第三者施設をいう。ただし架空線は2.に含む。

※重機の転倒事故も含む。

⑥除草作業における事故

※飛び石や機械との接触による人身、物損を含む

⑦特殊車両通行許可等違反による事故



近畿地方整備局では、工事等における事故において、公衆へ大きな影響を及ぼす恐れがある事故や、ひとたび発生すると重大事故に繋がる恐れがある事故について「**工事等事故防止重点対策項目**」と位置づけ、重点的に事故防止に取り組んでいるところでありますが、平成30年度の当該事故発生状況を踏まえ、上記の7項目を平成31年度の重点対策項目として定めました。引き続き、工事等事故の撲滅に向け、受発注者一体となって事故防止に取り組んでまいりましょう。

なお、重点項目には含めませんでした。伐木・伐採による事故も毎年度発生しており、平成31年度に増加することも予想されるため、上記7項目と併せて、事故防止に向けて取り組んでください。

重点対策項目に該当する事故を掲載する場合には、当該記事に上記アイコンを表示し、注意喚起を図っていきます！

労働災害が発生したらすぐに報告を！

【事故概要】

吹付機の清掃を作業員2名にて実施中、ホップフラップを閉めるため被災者がホップフラップを持ち上げ、もう一人の作業員がセットハンマーにて叩いて閉めようとしたところ、手元が狂い、被災者の右手小指を打撃し、被災させた。

【問題点】

この事故については、「作業員の収入が減る」「現場に迷惑をかけたくない」という意識が作業員にあり、作業員2人とも事故について**すぐに報告をしませんでした。**

それについて**労働基準監督署から、早期に労働災害等の情報が現場内で共有できるよう現場の体制確保措置を進めるよう指導されています。**

事故について詳細な状況が不明な場合及び事実確認等が済んでいない場合でも、直ちに監督職員へ一報を入れて下さい。また、各現場において、事故が発生した場合には、下請から元請への連絡体制が確実なものとなるように教育・指導を徹底して下さい。



工事・作業に関連して作業員等が被災して休業した場合には、事業者は労災保険の手続きとは別に、労働安全衛生法に基づいた『労働者死傷病報告』を所轄の労働基準監督署に提出する必要があります。

労働災害の発生を隠蔽するため故意に『労働者死傷病報告』を提出しない、又は、事実と異なる虚偽の内容を記載して提出する行為は、労働安全衛生法に違反する行為となります。

(関係法令)

◎労働安全衛生法100条(報告等)

◎労働安全衛生規則97条(死傷病報告)



ヒューマンエラーによる事故が多く発生しています

ヒューマンエラーとは ● ヒューマンエラーは当事者が意図しているわけではなく、人間の特性と能力の限界によって引き起こされます。その要因は情報伝達や意思疎通などのコミュニケーションの問題がほとんどです。

ミスを防ぐためには ● 作業員が、作業の必要事項を前もって理解している必要があります。作業工程はもちろんのこと、適切な服装や保護具を着用すること、作業の危険性の認識の共有、合図の統一、作業に対する疑問の解消などの事前確認を徹底してミスを予防しましょう。

- 指差呼称はミス防止に役立つ手段ですが、恥ずかしさや照れくささから浸透や定着しないという問題があります。職長などのリーダーが率先して行い、広く活用するようにしましょう。



事故防止はチームワークが重要！

現場にはベテラン・中堅・新規など様々な作業員がおり、複数のチームが同時に異なる作業を行うこともあります。それぞれの特性を理解し、チーム・組織一丸となって事故防止に努めましょう。

新規入場者の特徴 ● 新規入場者とは、「新しく現場に入ってきた職員、作業員」のことです。4月は新規入場者が多くなることから、十分な安全教育と特別な配慮が必要です。

- 新規入場者教育は適切に行われなければ意味がありません。OJT※（職場内訓練）であげられる不満は以下のようなものがあります。
 - ・「あれやれ、これしろ」と命令するだけである。
 - ・質問したくても話しかけられない雰囲気がある。
 - ・先輩や上司によって教える内容、答えが違っていてどれが正しいのかわからない。
 - ・専門用語ばかりの分かり難い教え方で理解しにくい。



※OJT: On the Job Training. 業務を通じて、その場で教育していく方法のこと。

- 現場内の体験は平等であっても、習得するスピードは個人差があります。能力や性格を把握してその人に合った教育を行うことを心がけましょう。

ベテランの特徴 ● ベテラン作業員は豊富な経験によりテキパキと行動し、効率性の高い作業を行います。その反面、慣れのために不安全な行動を行ってしまう、思い込みが発生しやすい。状況が変わっても手や身体が慣れた反応で動いてしまうことがあります。

- 加齢に伴う視力低下と運動機能の低下が現れます。
 - ・近くを見る視力の低下：多くの人は近くのものに焦点を合わせることが困難になります。
 - ・より明るい光が必要：60歳の人が必要とする光は、20歳の人必要とする光の3倍必要といわれています。
 - ・色覚の変化：色の認識が困難になります。例えば、青い背景上の黒い文字が読みにくくなったりします。
 - ・持久力の低下：疲労回復力や運動し続けるスタミナが低下します。
 - ・平衡感覚の低下：平衡機能が低下し、ちょっとしたバランスの崩れで転倒・転落などの災害につながる可能性があります。



チームワークの向上 ● それぞれの個性・特性・立場を理解し、チームとして安全対策に取り組むことが重要です。

- チームワークを高めるためにはメンバー間の協力関係を築く、参加意欲を高める、情報を共有する、目標を共有することが大切です。
- 年齢によって疲れかたや蓄積度は異なります。働き盛りのエネルギッシュな人を基準にして作業ペースや休憩のタイミングを決めてしまうことは危険です。作業員の心身状態の把握に努めましょう。



GWの注意事項について

- 長期休暇の時期には旅行者などの土地勘がない人が気づかずに立ち入ってしまう可能性があります。防護柵、安全標識、色灯を設置し、部外者が立ち入れないようにしましょう。
- 大雨や強風などによる影響がないか確認しましょう。飛散しそうな保安用具や看板、資材などは固定しましょう。強風などにより足場が倒壊しないか確認しましょう。
- 資材や機器の盗難に備え、防犯カメラや警備員の配置を検討しましょう。
- 工事休止期間中に発生した事故・トラブルについては誰が連絡を受ける窓口となるか、誰が監督員に報告するか、誰が現場での対応にあたるかなどを事前に取り決めておきましょう。

